

鎌倉歴史文化交流館  
令和7年度企画展実施報告

鎌倉歴史文化交流館学芸員

鈴木 楓実

齋藤 美来

山本 みなみ

大澤 泉

## 企画展

### 「平泉から鎌倉へ ―兵どもが夢の先―」



会期：令和7年（2025）3月15日（土）～6月21日（土）

主催：鎌倉歴史文化交流館（鎌倉市教育委員会）

展示品数：131点

来館者数：6,015人

X（旧 Twitter）発信数：17回

担当：鈴木楓実

刊行物：展覧会ハンドブック『平泉から鎌倉へ―兵どもが夢の先―』（鎌倉歴史文化交流館、2025年）

関連行事等：

- ・学芸員の展示解説：13回
- ・講演会「平泉と鎌倉」（6月8日、講師：岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンター長 八重樫忠郎氏）
- ・イベント「800年の時を越えて鎌倉に『ケロ平』がやってくる！！」（6月21日、世界遺産平泉PRキャラクター ケロ平との撮影及び企画展の展示解説を実施）

概要：平泉藤原氏（奥州藤原氏）は、平安時代中期から後期にかけての約100年にわたり、東北地方の平泉を拠点に繁栄した一族である。相次ぐ合戦で親族を失った初代藤原清衡の経験は、平泉の地に築き上げられた「みちのくの浄土」へとつながっている。清衡が築いた仏教を中心とした国づくりが3代にわたり発展し、平泉は都市として繁栄していくが、文治5年（1189）に源頼朝の奥州攻めにより滅亡した。その後、頼朝は戦没者を供養するため、鎌倉に永福寺を建立している。このように、戦乱が続いた後に平和を求める意識は、平泉藤原氏から頼朝へと引き

継がれていった。

本展では、平泉の出土品や史跡永福寺跡の出土品を通して、平泉藤原氏の栄華や、鎌倉へと伝わった平泉の文化について紹介した。

#### 〈主な展示品〉

後三年合戦絵巻 中巻・下巻（岩手県立博物館所蔵）／源義経公東下り絵巻（中尊寺所蔵）／紺紙金字一切経（複製）（えさし郷土文化館所蔵）／白磁四耳壺（柳之御所遺跡出土、岩手県所蔵）／水晶製数珠玉（白鳥館遺跡出土・奥州市教育委員会所蔵）／県指定 史跡永福寺跡内経塚出土品（鎌倉市教育委員会所蔵）

#### 〈展示構成〉

- 第1章 平泉藤原氏の誕生
- 第2章 平泉藤原氏の栄華と滅亡
- 第3章 平泉藤原氏の文化と流通
- 第4章 鎌倉に継承された文化とその後

#### 〈成果と課題〉

- ・平泉と鎌倉に関する展示はこれまでほとんどなかったため、2つの都市や文化、歴史をつなぐ貴重な機会となった。
- ・展示資料の約6割が平泉の出土品であったが、平泉と鎌倉の関係についてよく理解できたとの意見も多かった。また、9割以上の方が展示内容に満足、あるいはやや満足と回答しており、比較的満足度の高い展示であったことが窺える。
- ・展示の内容、資料ともに平泉が中心になってしまったが、平泉からだけでなく、鎌倉からの視点も取り入れるべきであった。



展示室全景

企画展 文化財課×鎌倉歴史文化交流館

## 「中世人の生と死 ー鎌倉発掘調査速報展 2025ー」



**会期:** 令和7年(2025)7月5日(土)～8月30日(土)  
**主催:** 文化財課・鎌倉歴史文化交流館(鎌倉市教育委員会)  
**展示品数:** 114点  
**来館者数:** 2,393人  
**X(旧Twitter)発信数:** 8回  
**担当:** 齋藤美来・鈴木弘太(文化財課)  
**刊行物:** なし。解説プリント配布。  
**関連行事等:**  
・学芸員の展示解説: 8回

**概要:** 源頼朝が鎌倉幕府を開いて以降、中世都市へと発展した鎌倉には、武士をはじめ商人や職人など多くの人が生活していた。市内で行われる遺跡の発掘調査では、住居の跡や当時使っていた道具など、昔の人々が生活していた痕跡が数多く見つかっている。

しかし、数百年前の人々の生活を知ることができる貴重な遺跡も、現代私たちが生活していくために行う土木工事などで失われてしまう場合がある。このように、やむを得ず失われる遺跡を可能な限り記録に残し、未来へ引き継ぐために発掘調査は行われている。

今回の速報展では、令和6年度(2024年度)に市内で行われた発掘調査の中から、若宮大路周辺遺跡群(御成町764番3,4)等の調査成果を、実際に出土した資料や調査写真等とともに紹介した。

### 〈主な展示品〉

人骨(長谷小路周辺遺跡出土)／題箋軸(大倉幕府周辺遺跡群出土)／瀬戸香炉(円覚寺旧境内遺跡出土)／クジラの肋骨(若宮大路周辺遺跡群出土)／櫓(材木座町屋遺跡出土)／平瓦・丸瓦(今小路西遺跡)など

### 〈展示構成〉

- 第1章 円覚寺旧境内遺跡
- 第2章 若宮大路周辺遺跡群
- 第3章 長谷小路周辺遺跡
- 第4章 材木座町屋遺跡
- 第5章 今小路西遺跡

### 〈成果と課題〉

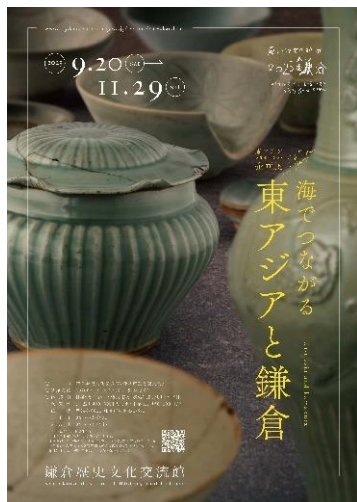
- ・9割以上の方が本企画展に満足、あるいはやや満足と回答しており、比較的満足度の高い展示となったといえる。
- ・非常に状態のよい人骨が出土したため、目玉の一つとして、速報展では初めて人骨を展示したが、来館者から改善の要望等は特に無かった。
- ・会期が学校の夏休みの時期と重なるため、イラストや画像を使用した小中学生にもわかりやすいパネルも設置するべきであった。



展示室全景

東アジア文化都市 2025 企画展

## 「海でつながる東アジアと鎌倉」



会期：令和7年(2025)9月14日(土)～11月29日(土)

主催：鎌倉歴史文化交流館(鎌倉市教育委員会)

展示品数：77点

来館者数：3,573人

X(旧Twitter)発信数：25回

担当：山本みなみ

刊行物：展覧会図録『海でつながる東アジアと鎌倉』(鎌倉歴史文化交流館、2025年)

関連行事等：

- ・学芸員の展示解説：10回
- ・内覧会(9月13日)
- ・KORYUKAN ワークショップ「KORYUKANの作品もようをお皿に描いてみよう！」(10月25日、講師：大江昭子氏)
- ・YouTube「鎌倉のひとに学びつながる」チャンネルにおいて、本展の紹介動画を公開

**概要：**鎌倉は、日本の歴史上初めて本格的な武家政権が置かれた都市である。三方を山で囲まれ、一方が海で隔てられた要害の地として知られるが、海に面していたことこそ、中世都市鎌倉の発展を支えていたといえる。貞永元年(1232)には人工の港和賀江嶋が築かれ、中国など遠方からの輸入品も荷揚げされた。東アジア諸国からの輸入品は、まず日本の対外的な玄関口である博多に運ばれ、瀬戸内海を經由して鎌倉に運ばれた。

本展では、市内出土の青磁や絞胎陶器などの貿易陶磁

器のほか、博多遺跡群や兵庫の祇園遺跡・大物遺跡などから出土した貿易陶磁器を展覧し、海によって結ばれた東アジアと鎌倉の交易を紹介した。なお、本展は東アジア文化都市2025事業の一環である。

### 〈主な展示品〉

市指定 青磁鎚文壺(太平寺跡出土・別願寺所蔵)／青磁浮牡丹文大花瓶(建長寺所蔵)／龍泉窯系青磁小碗(博多遺跡群出土、福岡市埋蔵文化財センター所蔵)／「丁綱」墨書陶磁器(大物遺跡出土・尼崎市立歴史博物館所蔵)／市指定 玳瑁釉小碗(祇園遺跡出土・神戸市所蔵)

### 〈展示構成〉

第1章 日本の玄関口 博多

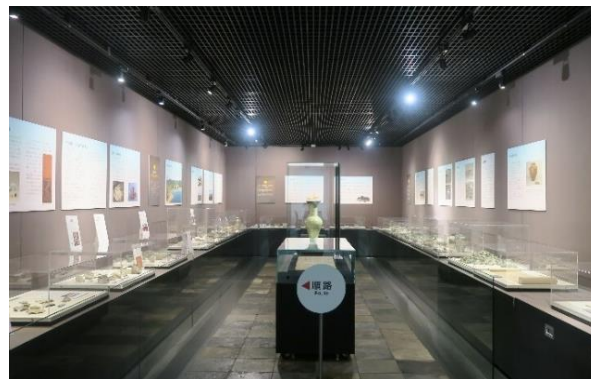
第2章 清盛の夢 福原京と大輪田泊

第3章 瀬戸内海航路の集積地 大物

第4章 武家の都 鎌倉

### 〈成果と課題〉

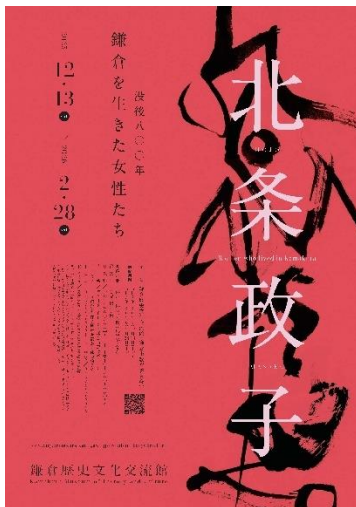
- ・博多・神戸・尼崎の出土品が一堂に会するのは、2013年NHK大河ドラマ「平清盛」の巡回展以来の貴重な機会となった。
- ・博多以外での出土は珍しい墨書陶磁器について、博多・大物・鎌倉の出土品を並べて陳列することができた。
- ・アンケートでは、8割の方が展示解説について、わかりやすいと回答しており、「陶磁器」や「東アジア」という難しいテーマではあったが、来館者の知識レベルに合った展示内容であったことが窺える。
- ・展示タイトルに「博多」「神戸」などの地名を入れるなど、鎌倉以外の出土品も展示することがわかるように工夫すべきであった。



展示室全景

企画展 没後 800 年

## 「北条政子—鎌倉を生きた女性たち—」



会期：令和 7 年（2025）12 月 13 日（土）～

令和 8 年（2026）2 月 28 日（土）

主催：鎌倉歴史文化交流館（鎌倉市教育委員会）

展示品数：80 点

来館者数：6,121 人

X（旧 Twitter）発信数：34 回

担当：大澤泉

刊行物：展覧会パンフレット『北条政子—鎌倉を生きた女性たち』（鎌倉歴史文化交流館、2025 年）

関連行事等：

- ・学芸員の展示解説：10 回
- ・夜間講座「くずし字ことはじめ—北条政子の史料をよむ—」（1 月 30 日、講師：大澤泉）
- ・夜間講座「政治家・北条政子」（2 月 20 日、講師：山本みなみ）

**概要：**嘉禄元年（1225）7 月 11 日、北条政子は 69 歳で没した。前年には弟の北条義時が、同年には幕府重臣の大江広元が没しており、源頼朝死後の幕府運営を支えた主要人物が相次いで世を去ったことで、鎌倉幕府は一つの節目を迎えることとなった。

政子は伊豆国に生まれ、流人であった源頼朝と結婚したことにより、鎌倉幕府成立の過程に深く関わることとなった。頼朝の死後は将軍家の後家として幕府を支え、三代将軍源実朝の死後には出家の身でありながら政治的指導力を発揮し、「尼将軍」と称される存在となった。同時

代の僧慈円は『愚管抄』において、政子と京都の藤原兼子が政治に関与する状況を「女人入眼ノ日本国」と評している。

本展は、北条政子没後 800 年を機に、政子の政治的役割を位置付け直し、その生涯をたどるとともに、中世鎌倉における女性の役割と社会的背景について紹介するものである。

### 〈主な展示品〉

北条政子坐像（安養院所蔵）／市指定 白衣観音図（寿福寺所蔵）／転法輪鈔（国立歴史民俗博物館所蔵）／御成敗式目（国立歴史民俗博物館所蔵）／極楽寺殿御消息（国立歴史民俗博物館所蔵）／市指定 籬菊螺鈿蒔絵手箱図巻（鎌倉国宝館所蔵）／草稿「北条政子」永井路子（鎌倉文学館所蔵）

### 〈展示構成〉

第 1 章 女人入眼ノ日本国

第 2 章 鎌倉を生きた女性たち

第 3 章 変わりゆくイメージ

別館展示 鎌倉時代の女性たち

### 〈成果と課題〉

- ・安養院所蔵の北条政子坐像は、寺外初出陳であったため、展覧会の象徴的資料として来館者の関心を集めた。
- ・アンケートでは、展示について 94.6%の方が「満足」もしくは「やや満足」と回答する一方で、展示をわかりやすいと回答した方は 89.3%に止まった。文献史料やパネルを中心とした構成であったため、来館者にとって内容理解が難しい部分も見受けられたと推測される。今後は展示解説の工夫や図版資料の活用などにより、より分かりやすい展示手法の検討が必要である。



展示室全景